
岐阜県立揖斐特別支援学校

学校長 松原 勝己

学校住所 揖斐郡揖斐川町谷汲深坂 2 7 6 0 電話 0585-56-0050

1 会議の名称 岐阜県立揖斐特別支援学校 学校評議員会 (第 1 回)

2 会議の構成 委 員 岩井 順子 揖斐川町手をつなぐ親の会
古野 幸博 谷汲地区民生委員副支部長
立木 一美 J A 岐阜厚生連 揖斐厚生病院 主任言語聴覚士
村瀬 克己 谷汲公民館館長
横山 篤夫 株式会社サン・シング東海常務取締役
(五十音順、敬称略)

学校側	松原 勝己	校長
	木下 香居	P T A 会長 (欠席)
	河合 均	教頭
	早坂 英主	小学部主事
	福島 洋之	中学部主事
	滝 一男	高等部主事
	由井真紀子	教務主任
	杉山 茂樹	事務長

3 会議の目的 学校運営等について関係諸機関や地域住民から幅広く意見を聞き、地域社会から支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和元年 6 月 1 3 日 (木) 13:30~15:30 当校図書室

5 会議の概要

(1) 働くために身につけるべきこと

- 意見 1 校内作業実習中の様子を見て) 集中力を養う、協力することの大切さを養う点などからよい取組ができていたと感じた。
- 意見 2 新入社員の就労継続期間は平均 16.9 か月就労のミスマッチは企業側にも責任がある。
- 意見 3 作業の様子を見ていると、一見やらされているようで、実際は自分なりの取組ができている。丁寧な支援が効果を上げている。
- 意見 4 作業の内容を説明する生徒の姿に意欲が感じられてたいへん素晴らしかった。
- 意見 5 離職後のケア、企業との連携はどの程度できているか。
→就職後 3 年間は、学校としてきちんと企業と連携して動向は確認している。
- 意見 6 (実際に就労している当校卒業生の様子から) タイムカードの扱いなど既に学校で指導を受けて慣れている。実地的な指導はとてもよい。

(2) 教員の働き方改革について

- 意見 1 仕事が子ども中心なのでやむを得ない事情もあると思う。教材作りなどでよりよいもの作ろうと力が入ることもあるだろう。
- 意見 2 保護者への発信、外部への発信も大切ではないか。
- 意見 3 企業では製造ラインを止めてでも就業時間の終了は厳格に行っている。
- 意見 4 書類を減らす、電子決済などのシステムを取り入れる、等の工夫はできないか。
- 意見 5 業務内容に応じて外部人材の活用を積極的に進めてはどうか。(病院では) クレーム対応に警察に協力してもらっている。

(3) その他

- 意見 1 外部講師が入っての指導の際には、指導の連携の工夫を求めたい。
- 意見 2 谷汲山参道の清掃作業など、地元を大切にした活動は素晴らしい。
- 意見 3 特別支援学校の子どもたちにとっては、学校で過ごす時間がとても大切。その時間を大切にしてほしい。
- 意見 4 (ボッチャの活動を見て) ボッチャは世間でも注目されている。勤務先でもレクリエーションで導入したい。

6 会議のまとめ

事前に会議のテーマを絞って参加委員にお知らせした上で、生徒の活動風景の見学、意見交換の形をとったので、委員各位からはテーマに沿った意見を多数受け取ることができた。当校は、特に地域との連携を学校の重要課題として掲げているが、委員各位の意見からも、地域故の期待や指摘をいただき、今後の学校運営に大いに参考となった。